

「新事務・研究棟」竣工

東南海沖地震に備え刷新

物産フードサイエンス

物産フードサイエンスは、生産拠点である名古屋工場（愛知県知多市）の事務所棟と研究棟を刷新し、このほど「新事務・研究棟」が竣工した。今月15日には竣工式が開かれ、関係各社など60名を超える参加者が集まった。同社では、これまで製造設備の耐震工事を進め、13年に工事がほぼ完了していた。新事務・研究棟は、今後の東南海沖地震に備え、築30年の事務所棟の耐震工事を機に研究棟を含めてリニューアルしたもので、これまで個別であった棟を一つの建物とした。研究フロアでは、アプリケーション開発の現場であるクッキングラボや試験室について、新たに動線を考えて機器配置とし、また、

員や来客されたお客様を守るための投資を行った。また、今回の新事務・研究棟への投資は、国産への拘りを持ち、将来へ向かって事業拡大を行う決意表明でもある。一方で、役員がワンフロアで業務を行う環境を整えることで、コミュニケーションの機会が増え、会社全体の力をさらに底上げできると考えている。当社が製造する糖アルコールの歴史は古いですが、過去の掘り起こしと新たな研究開発により需要を創出できる余地はまだあり、これを当社起点で行っていく。開発中の新規素材を含めた研究開発のスピードを加速し、その成果をユーザーへ提供する」と話す。

使用の実機を従来から取り替え充実したクッキングラボとなっている。この春には食品開発経験者を複数新規採用すること

とで人員面でも開発機能の拡充を図った。今後、同社では新たな機器の購入も計画しており、アプリケーション開発力を高めユーザーが求める要望へのきめ細かな対応と提案を行っていく。さらに、クッキングラボでは、ユーザーを招き共同で試作を行うことで、糖アルコールを始めとした同社の機能性素材の特

長をユーザーに実体験してもらう場としても活用する予定だ。また、これまで事務所棟、研究棟があった場所には、新たな製造設備を導入していく計画だ。今後、適切な設備投資を進めていくことで、安全・安心・安定供給を担保した製品、付加価値の提供をユーザーへ行っていく。

新事務・研究棟は、2階建てで延べ床面積は約2700㎡。1階は、研究開発や品質管理、品質保証のフロアとなり、2階を事務フロアとした。新棟の建設に当たり、名古屋工場に隣接する約1ヘクタールの土地を新たに確保。新事務・研究棟は、職場環境の安全を確保するとともに、独立していた各棟を統合することで従業員のコミュニケーション向上を図り、業務効率の向上および生産性も高めていくことが狙いにある。

同社の村上英之社長は「安定供給のための設備の耐震工事はほぼ完了し

ており、今回は、役職や包絡機などでユーザー



刷新された新事務・研究棟

エントランスホール